

平成20年度 生活創造大学 「情報文化科」 提言

1. 「たかテレビ」を活用して多可町の魅力を地域の人に伝える

今年度の情報文化科は「～ふるさとの魅力をたかめよう～」と題して、「地域の魅力アップのためにはどうすればいいか」をテーマに講座を展開していきました。そんな中で感じたのは、私たちを含め多可町民は如何にこのふるさとの魅力を知らずに日々暮らしているか、ということでした。特に自分の区以外のことは「自分のもの」という意識も薄く、親しみを持ってまだまだ知られていないことが多いようです。

第1回講座では、オープン間もないラベンダーパーク多可を見学し、開園までの取組みと特色をお聞きし、今後は「多くの人に係わってもらいたい」という思いが伝わってきました。

第4回講座の学外研修で梅花藻の群生する醒井と近江八幡に行きました。そこには、時代の流れに放っておけば消えてしまう自然や景観を、地域の方が自分のものとして守り活用している姿がありました。

第5回講座では、町内の文化財などをボランティアガイドさんの案内で見学しました。ふだん何気なく見過ごしているものがこんなに価値のあるものなのかと改めて知ることで、多可町への愛着が深まりました。

第6回は多可町在住の絵本作家鈴木千春さんの講座があり、その中で2作目「めだかさがし」から、「小さなものから消えていき、それがなくなるとその次のものが消える」「探さなければ見つからないものがあり、見つけたときの感動は大きい」というメッセージを受取り、多可町の魅力さがしとダブリました。

最後の第7回講座で、多可町の歴史遺産を紹介され郷土の誇りを感じたものです。

各講座で地域のことを身近に紹介されますと、ふだんどこにでもあるものの一つとしてしか目に映らなかったものが、意義深い「ここにしか無いもの」として輝きました。

多可町の魅力を町外の人や各地域に発信するには、まず住民が知らないと伝えられないし、また伝える意味も無いように思われます。現在「ふるさとウォッチング号」やパンフレット・ホームページなどで多可町の魅力を知る機会が多く設けられていますが、まだまだ関心が薄いようです。

そこで、間もなくスタート予定の多可テレビで「地域の見どころ紹介」の番組を制作されることを要望します。各施設（各個所）5分から10分程度にまとめ、ボランティアガイドさんに説明をしていただきます。テーマを決めコースごとに紹介したりDVDにして販売したり、成人式や卒業式の記念品として配布することも考えられます。特に若い人に興味を持っていただきたいものです。足掛かりになるのは何よりもテレビです。身近で手軽で取っ付きやすく、そこを入口にして見学ツアーの募集もしてみてもはいかがでしょうか。そんな取組の中から町外にも多可町の魅力が広がっていくように思います。

2. 地域の情報は地域の言葉で発信する

第2回講座で多可町の方言について丸山三郎先生からお話を聞きました。その中で、「播州弁カルタは非常にユニークな存在で価値あるものなのでまちおこしにもっと活用するのが良い」ということと、「方言は言葉の文化遺産であり守り伝えなければいけない」という内容が印象的でした。

考えてみますと今の若者は、方言を使っているようでも「関西圏標準語」を使用している感じです。雰囲気こそ方言ではありますが、この地域独特の方言ことばは使っていないように思われます。家庭や地域では、世代を超えて子供たちにもっと地域のことばで話しかける必要があるのではないのでしょうか。標準語の使い回しが変わっていくのは時代の流れかとも思いますが、方言が消えていくのは地域文化が色あせていくような気がしてなりません。

そこで、多可町の情報発信をしているホームページでは是非とも方言でも表現し、まちの紹介や観光案内、挨拶などは標準語と方言の二ヶ国語表記にしてはどうでしょうか。また多可町の方言紹介のページを作ったり、たかテレビでは方言を多可町の標準語として使用してもらいたいものです。

昔道德の教科書に「MADE IN JAPAN と英語表記してある日本製品は信用できない。なぜ日本製なのに英語で書くのか。MADE IN FRANCE と英語で書いてあるフランス製品は信用できますか？」といった趣旨のことが書いてあったのを思い出します。メイド・イン・多可には多可町のことばで表記するのが良いのではないのでしょうか。

3. 多可町独自の播州織の活用

第3回講座では、「活力ある地場産業で地域の魅力アップを」ということで、播州織の歴史から現在の取組みまでをお聞きました。その中で新しく播州織ブランドが認められたことや、活力ある産地の取組みが紹介され、播州織に新たな魅力を感じます。

多可町内でも様々な分野で播州織を利用されているようです。しかし、播州織の中心はどうしても西脇市で、同じ産地でも多可町が表に出ることは少ないようです。業界としての中心は一つでいいのですが、多可町なりの取組みで多可町の魅力アップにつながることはないのでしょうか。

昨年度の提言の中に、「ふろしきの活用から播州織を利用したら」というのがありました。それに対して八千代町商工会の取組みを紹介され、町としても支援していきたいということでした。それに引き続いての内容になりますが、播州織商品の開発や販売に限らず、多可町＝播州織がイメージできる活動がないものかと考えます。

例えば多可町の特産品などを播州織の袋に入れて販売したり、商品のクッション用詰め物が播州織の端切れだったり、さり気ない二次的な使用で多可町のベースに播州織があるとイメージできないのでしょうか。そこには多可町と播州織の関係もしっかりPRしておきます。町内の商店や企業の協力も得て進めることができれば、大きな力になりそうです。

以上3項目を本年度情報文化科で学習したことを元に、提言として提出させていただきます。